



Calsonic Kansei  
Driven by Inspiration and Innovation

# Sustainability Report

サステナビリティレポート  
ダイジェスト版



2018

# Creating New Value for Sustainability

私たちカルソニックカンセイグループは、  
自動車産業の黎明期に創業し、今年創立80周年を迎えました。

自動車産業は今、100年に一度の大変革期にあります。  
私たちはグローバルな独立系自動車部品の  
モノづくり企業へと生まれ変わり、新体制のもと、  
独立性と主体性をもって変革を推進しています。  
卓越した技術とモノづくりに支えられた  
トータルソリューションによって、モビリティ市場に  
新しい価値をもたらし、持続可能な社会の実現を目指します。

さあ、新たな発進です。  
カルソニックカンセイグループは、挑戦を続けます。

## Table of Contents

---

02	ビジョン、ミッション、バリュー
03-04	トップコミットメント
05-06	CK at a Glance
07-08	持続可能な価値創造プロセス
09-10	カルソニックカンセイ中期経営計画「Compass 2021」
11-14	注カドメイン
15-16	従業員ワークショップ
17	CSR方針と重要課題

---

### 18-31 2017 in Review

18	2017年度の主な成果
19-22	海外リージョン報告
23-31	ハイライト

---

32	第三者意見／第三者意見を受けて
33	会社概要／編集方針
34	財務ハイライト／グローバルネットワーク

## コーポレート・ビジョン (企業理念)

グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とモノづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

## ミッション・ステートメント (使命)

### グローバル (Global)

私たちは多様な考え方を尊重し、ダイナミックな行動により、世界有数の自動車部品メーカーとしてのブランドを構築します。

### 夢・情熱 (Inspired)

私たちは、我社の共通の価値観をベースに、誇り、夢、情熱を持つひとつのチームとなります。

### 世界をリードする革新性 (World Leading Innovation)

私たちは、創造性とモノづくり精神を融合し、高品質の製品とプロセスで、市場をリードする価値をお客さまに提供します。

### 持続可能な社会に向けて (Sustainable Society)

私たちは、よき企業市民として、株主、地域社会、チーム・メンバーに価値を提供し続けることにより、社会的責任を果たします。

## バリュー:CK WAY (行動指針)

### 個人 (Individual)

1. 挑戦 (Challenge)
2. 自律 (Independence)
3. 学ぶ (Learning)

### 実行 (Task)

1. 事実を捉える (Fact-Driven)
2. 継続性 (Continuous)
3. コミット&ターゲット (Commitment & Target)

### チーム (Team)

1. クロスファンクション/クロスリージョン (Cross Function / Cross Region)
2. 人への愛着 (People Oriented)
3. ダイバーシティ (Diversity)
4. 透明性 (Transparency)





## Top Commitment

### 次の80年へ向けた、 CSRと経営のさらなる融合と深化

カルソニックカンセイ株式会社 代表取締役社長  
ペダ・ホルゼニウス

2018年4月付で代表取締役社長に就任いたしました。創立80周年という記念の年にこの機会を得たことを光栄に思います。

#### 80年の歴史で培った技術で市場環境変化に スピーディに対応し、イノベーションを創出

カルソニックカンセイグループと、それを取り巻く市場環境は大きな変革の時期を迎えています。

2017年3月末、カルソニックカンセイグループは日産自動車グ

ループの一員から、独立した自動車部品のモノづくり企業へと大きな変化を遂げました。

自動車産業はACES(A:Autonomous(自動運転)、C:Connected(接続性)、E:Electronic(電動化)、S:Shared(共有))といわれるトレンドを柱として、目まぐるしく変化しています。

カルソニックカンセイは2017年、新中期経営計画「Compass 2021」を発表しました。キャビンイノベーションとエネルギーマネジメントを注カドメインとして、技術革新のDNAとモノづくりの情熱で、システムソリューションプロバイダーを目指すものです。(→p.9-10)

この注カドメインは、ACESとも密接に関連しています。たとえば、CPM(コックピットモジュール)で、さまざまな技術を融合させたり、電カマネジメント技術・熱カマネジメント技術を活かし電動化車両のエネルギーフローを最適化するシステムを提供することで、これらのトレンドに対応していきます。

市場環境は常に変化しており、新たなデマンドが次々と生まれて

います。高品質で優れた技術を常に提供し続けることが必要で、一時も立ち止まってはられません。

一方で、熾烈な競争を勝ち抜いていくには、すべての分野に網羅的に対応していくのではなく、特定の製品やソリューションに戦略的にフォーカスすることも必要です。

私のこれまでの自動車業界での経験とカルソニックカンセイの培ってきた技術を存分に活かし、イノベーションを創出し、カルソニックカンセイグループのさらなる成長に貢献していきます。

## 次のステージへの大きな一歩を踏み出した 2017 年度

新中期経営計画「Compass 2021」初年度である2017年度の連結業績は、さまざまな拡販活動や、経営努力により、厳しい市場環境の中でも前期並みの一兆円をキープしました。「Compass 2021」で定めた3つの成長戦略のもと、さらなる売上、収益の拡大を目指します。

環境面では、グローバルでの環境活動を強化することを目的に、環境方針を2018年3月に改訂し、名称を「CKグリーンポリシー」と改めました。

また、「Compass 2021」において、SBT\*1に基づきスコープ1、2のCO<sub>2</sub>排出量削減目標を設定し、2017年度は目標達成に向けた準備を着実に進めました。(→p.27-28)

社会面においては、サプライチェーンを含めた社会課題への対応を重視し、サプライヤーをはじめとするパートナーとともに取り組みを推進しました。

具体的には、主要サプライヤーへのCSR全般とコンプライアンスのデューディリジェンスを実施し、調達ガイドラインなどの改訂・浸透を進めました。2018年度は、この結果をもとに、課題の抽出や説明会の実施など具体的なアクションにつなげていきます。(→p.29)

社会貢献活動は、次世代支援、安全、環境、コミュニティ/地域社会の4つの領域を軸に推進しています。今後はグローバルで一体となった活動を目指し、各地域でのベストプラクティスを共有していきます。(→p.31)

## 多様性と協調性を兼ね備えた「ワンチーム」で成長を加速

カルソニックカンセイグループは多種類の製品を取り扱うため、組織は多面的であらざるを得ません。しかし、さまざまな課題に対して、従業員一人ひとりが協調性をもってワンチームとなって成長することが重要だと考えています。

グローバルに事業を拡大するために、チームの多様性も推進していきます。性別、国籍、障害など人の多様性と、多種類の製品を取り扱うことによって培われた専門的な技術・ノウハウの多様性、この2つを尊重しながら、密なコミュニケーションによって融合していきます。

ワンチームを実現する基盤として、「働き方改革」にも積極的に取り組んでいます。業務の効率化に向けた取り組みを推進し、多様な働き方のための諸制度を整備することで、より満足度の高い職場環境の構築を目指します。(→p.26)

## CSR と経営を融合した長期的視点のサステナブル経営を推進

カルソニックカンセイグループは2015年度にCSR活動を体系化し、CSR活動の周知を推進するとともに、事業を通じて社会課題の解決への貢献に寄与してきました。

「Compass 2021」では、経営基盤のひとつとしてCSRを掲げています。今後は、長期的な視点で世界の経済・社会の動きに柔軟に対応し、経営資源を効率的に活用してCSR活動と経営のさらなる融合と深化を図っていきます。そのために、ステークホルダーとのエンゲージメントも推進していきます。

さらに、2017年度はCSR重要課題見直しの際に、国連持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)\*2の視座を取り入れました。CSRの15の最重要課題と連動させるとともに、事業活動においても注力目標を定め、国際目標の達成に貢献します。(→p.7-8)

カルソニックカンセイグループは、80年、その先まで持続的に発展していくために、ワンチームとなって挑戦し、業務を推進していきます。ステークホルダーの皆さまには、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

\*1 :Science Based Targetsの略称で、パリ協定の目標である世界の平均気温上昇「2℃未満」の達成に向け、科学的根拠と整合させた目標値。

\*2 :国連持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)  
2015年9月、ニューヨーク国連本部にて開催された「国連持続可能な開発サミット」において、150を超える加盟国首脳の参加のもと、人間と地球の繁栄のための行動計画として掲げられた宣言および目標。17の目標と169のターゲットを設定している。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

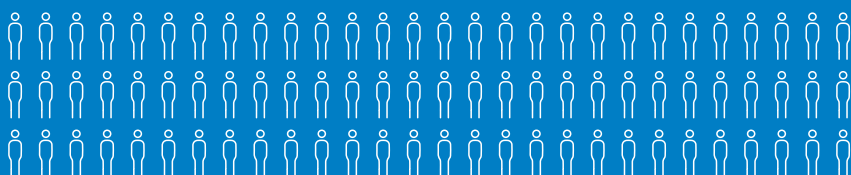


CK at a Glance



連結従業員

22,678 人



連結地域別従業員

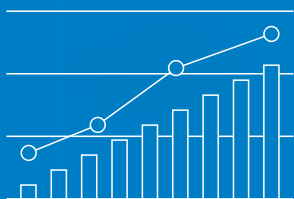
米州	6,183 人	欧州	2,372 人
アジア	7,070 人	日本	7,053 人

研究開発拠点

8 カ国 13 拠点



連結売上高

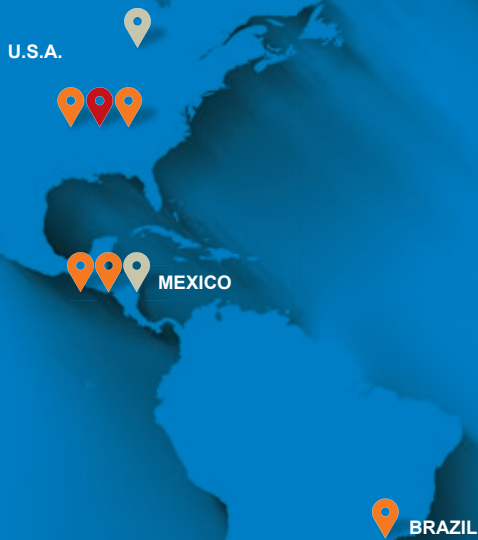


**9,986**  
億円

連結地域別売上比率



日本 **35.8%**  
米州 **30.6%**  
アジア **21.8%**  
欧州 **11.8%**



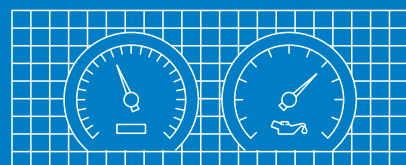
生産拠点

**15** 力国 **80** 拠点



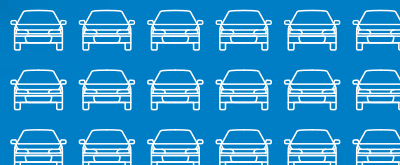
連結研究開発費

**328.9** 億円



供給自動車メーカー

**18** 社



# Sustainable Value Creation Process 持続可能な価値創造プロセス





### CSR 最重要課題

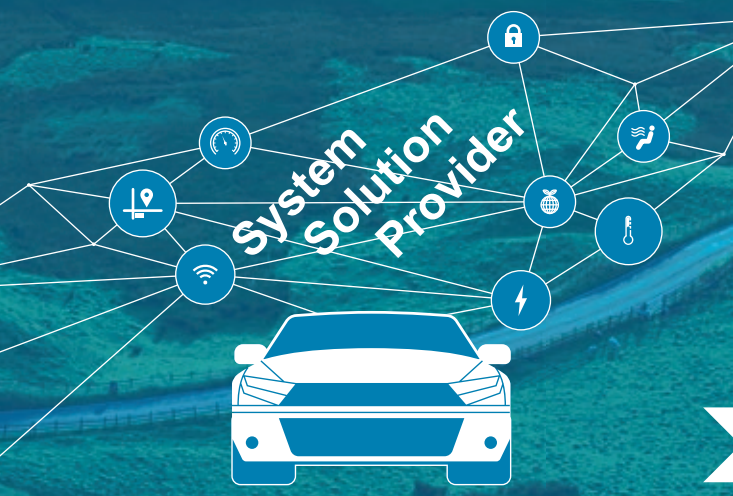
気候変動対策  
環境汚染対策  
資源の有効活用  
サプライチェーンの ESG 向上

社会的価値を創出するイノベーション  
人権尊重  
労働安全衛生  
ワークライフバランスの推進

ダイバーシティの推進  
人財育成  
お客さま満足度の向上  
品質向上

ESG リスクマネジメントの推進  
コンプライアンス強化  
情報セキュリティの強化

## カルソニックカンセイ中期経営計画 Compass 2021 >>> p.09



### システムソリューションプロバイダー

#### エネルギーマネジメント（エネルギー効率 / 環境性能） >>> p.11

- ・環境技術
- ・熱エネルギーマネジメント技術
- ・電気エネルギーマネジメント技術

- ・統合エネルギーマネジメント
- ・新世代パワーエレクトロニクス
- ・省動力システム

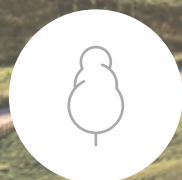
#### キャビンイノベーション（車内空間 / ヒューマンマシンインターフェース） >>> p.13

- ・HMI / コーティリティ
- ・インテリアデザイン
- ・車室内環境制御
- ・車内外通信技術

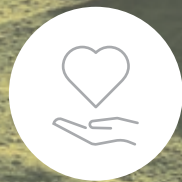
- ・インテリジェント HMI
- ・インテリアバリュー製品
- ・コネクテッドシステム
- ・サイバーセキュリティ

注カドメイン

アウトプット



環境負荷低減



安心・安全



快適・利便

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

13 気候変動に  
具体的な対策を

12 つくる責任  
つかう責任

効率化、軽量化、再利用により GHG（温室効果ガス）排出量削減に寄与し、資源の有効利用へ貢献します。

11 住み続けられる  
まちづくりを

大気の浄化技術で都市の環境負荷軽減に貢献します。

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう

快適で便利なモビリティ環境を提供し、移動の自由やクオリティオブライフの向上へ貢献します。

3 すべての人に  
健康と福祉を

安心・安全な車内空間を創造し、交通事故の削減に貢献します。

提供価値

事業戦略を通じ  
注力する SDGs 目標

### 経営基盤

## 5C Promotion

CSR, Compliance, Customer Satisfaction, Corporate Governance, CK WAY

### 経営資産

知的資産	人財	顧客資産	生産拠点	設備投資額
研究開発費 <b>328.9</b> 億円	連結従業員数 <b>22,678</b> 人	供給自動車メーカー数 <b>18</b> 社	お客さま満足度 <b>3.43</b>	<b>299.4</b> 億円
	CK WAY* の従業員浸透度 グローバル平均： <b>3.16</b> 点 / <b>4</b> 点		生産拠点 <b>80</b> 拠点	

\*コーポレートビジョン実現のために、CKグループ全社員が持つべき価値観の浸透度をはかるサーベイ

Mid-term Business Plan

# カルソニックカンセイ中期経営計画

Compass 2021



キャビンイノベーションとエネルギーマネジメントを核として  
技術革新のDNAとモノづくりの情熱で  
“システムソリューションプロバイダー”を目指す

数値目標: 付加価値売上高 7,500億円  
(完成車メーカーによる指定・支給部品を除いた売上)



## ありたい姿と注カドメイン

2017年7月、カルソニックカンセイグループは新中期経営計画「Compass 2021」をスタートさせました。日産自動車グループからの独立後初めての中期経営計画です。

「Compass 2021」ではありたい姿を「システムソリューションプロバイダー」と定めています。自動車に関わる幅広い技術と製

品を併せ持つ強みを活かし、今後の市場ニーズにマッチした「キャビンイノベーション(車内空間/ヒューマンマシンインターフェース)」と「エネルギーマネジメント(エネルギー効率/環境性能)」の2つを注カドメインに設定し、技術・製品・システムの各階層で、お客さまに将来的な価値を提供できる企業を目指します。

## 成長戦略：3つの柱



### 1. 新規顧客の開拓

主要なお客さまである日産自動車とのビジネスの維持・拡大を推進するとともに、顧客の多様化と拡販を図っていきます。拡販のための専門のチームを立ち上げ、具体的なマイルストーンに基づいて一步一步着実に進めていきます。

### 2. “CKならではの”の新製品開発

2つの注カドメインを強化するため商品企画室を新設し、“CKならではの”の魅力を持つ新製品開発を進めていきます。市場とお客さまのニーズを先取りした製品と技術を積極的に提案していきます。

### 3. ダントツ・モノづくり

お客さまの要求を満足する製品・サービスなどの価値を、最高水準の効率で実現する生産体制を目指します。具体的には、コスト競争力を高める自動化・内製化、品質の安定をもたらす現場管理、新生産技術への取り組みなどを推進していきます。

## マインドセット

カルソニックカンセイグループは、2017年3月末に日産自動車グループから独立しました。今後は、特定の自動車会社と資本関係をもたないモノづくり企業として、「Compass 2021」における成長目標を達成するため、全従業員共通のマインドセットを「独立心と主体性」と決めました。

## 独立心と主体性 Independence & Initiative

## 経営基盤：CSRの取り組み

事業を通じて社会課題に取り組み、持続可能な社会を実現していくために、CSRビジョンとそれを実現する重点施策「従業員意識の向上」「社会との共生」「企業価値の向上」を掲げています。

### CSRビジョン

誠実で信頼される企業をめざし、働きがいのある職場の実現と社会課題に取り組む意識ある従業員を育成し、

しなやかで強い企業を実現するとともに

持続可能な社会の実現に貢献する

#### 重点施策

##### ▼従業員意識の向上

- ・働きがいのある職場の実現(ディーセントワーク)
- ・従業員の社会課題取組意識の向上

##### ▼社会との共生

- ・国際規範への対応
- ・事業を通じた社会課題解決
- ・SBTに基づくCO<sub>2</sub>排出量削減活動

##### ▼企業価値の向上

- ・中期経営計画の達成
- ・CSR活動の強化

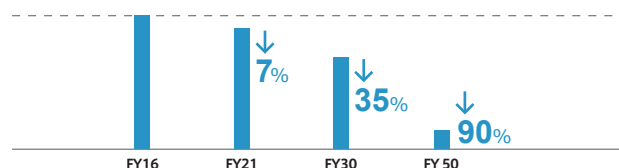
#### ISO 26000 (世界的な社会的責任のガイダンス) に対応

「社会との共生」においては、SBTに基づきCO<sub>2</sub>排出量削減の目標値を設定しています。徹底的な省エネ活動や、再生可能エネルギーの導入などにより、目標を達成していきます。2016年度のCO<sub>2</sub>排出量を基点として、2030年度は35%削減、2050年度は90%削減を目指しており、その通過点となる「Compass 2021」の最終年度である2021年度は7%削減を目標に取り組んでいきます。

### 地球温暖化対応として、SBTに基づいたCO<sub>2</sub>排出量削減活動を推進

#### スコープ1、2のCO<sub>2</sub>排出量削減目標 (FY16比)

FY16=100



徹底的な省エネ活動、再生可能エネルギーの導入等により削減

## Focusing Domains

## 注カドメイン: エネルギーマネジメント (Energy Management)

エネルギーマネジメントドメインは、  
電気自動車における長年の量産実績で培った  
駆動および電源コントロール技術、熱関連デバイスと関連技術、  
空調システム技術とともに、電気・熱エネルギーマネジメントによって  
環境負荷低減に幅広く貢献しています。

## エネルギーマネジメントドメインの製品群

- 排気製品  
排気システム: マフラー、エキゾーストマニホールドコンバーター、スピニングバルブ、板金タービンハウジングCK-SMITH
- 熱交換器製品  
ラジエーター、コンデンサー、モーターファン、EGRクーラー、ビルトインオイルクーラー (BOC)、チャージエアクーラー
- 空調製品  
エアコンユニット、EVIボレーター、ヒーターコア、クールボックス
- コンプレッサー製品  
固定容量コンプレッサー-CRシリーズ、可変容量コンプレッサー
- 電子製品  
パワーエレクトロニクス: インバーター  
ボディエレクトロニクス: リチウムイオンバッテリーコントローラー (LBC)



カルソニックカンセイ株式会社  
グローバルテクノロジー本部 環境技術開発部  
部長

宮地 俊勝

### 幅広い技術 / 製品群を強みとし 車全体のエネルギー効率の 向上を図る

エネルギーマネジメントドメインでは、GHG排出量を削減するとともに、大気の浄化に貢献するために、電気エネルギーを安全に効率よく取り出し供給・使用するシステム「Electric Energy」、暖機効率の向上を目指した吸排気系エネルギーマネジメント「Power Train Thermal Energy」、省動力を実現する高効率な空調システム「Climate Control Energy」の3領域で技術開発を推進しています。

### 電動化のフロントランナーとして [Electric Energy]

当社は、電気自動車の草創期から重要部品を数多く供給しており、特にバッテリーの電力を直流から交流に変換するインバーターの生産実績は36万7千台を超えています(2018年4月実績)。電池の制御を行うバッテリーコントローラーも同様の実績があり、弊社独自の状態推定技術とあわせて電気エネルギーを高効率でマネジメント可能です。

電気自動車において得た知見は、回生蓄電など新世代のパワーエレクトロニクス製品にも活かされています。

### エンジンの熱交換効率の向上に 寄与する製品・システムの創出 [Power Train Thermal Energy]

電気自動車は増加していますが、内燃自動車から完全に切り替わるまで普及するにはまだ時間がかかると予想されています。内燃自動車において、引き続き環境負荷の低減につながる製品群の開発を推進して

いきます。

内燃自動車は、燃焼させたエネルギーを回転運動に変換して駆動力にするため、CO<sub>2</sub>をはじめとするGHGの排出は避けられません。エンジンの燃焼効率を向上することで、いかに排出量を低減するかがポイントとなります。

当社はエンジン以外の熱関連技術/製品を幅広く取り扱っており、エンジン熱効率向上に寄与するデバイスと車両レベルでの熱システムを開発することが課題です。

エンジンの変更は、さまざまな要素が複雑に絡み合います。たとえば、エンジンの燃焼効率が上がると、排ガスの温度が下がります。排ガス浄化触媒を反応させるためには、ある程度の温度が必要で、温度が下がると貴金属触媒量を増加する必要があります。それを回避するため、今度は温度を維持するデバイスが必要です。2018年3月に「第17回ステンレス協会賞」で最優秀賞を受賞した板金タービンハウジング「CK-SMITH」(→p.27)は、このようなニーズに対応し、触媒昇温性能を向上させた製品です。

現在は、排ガスを有効な熱源として、排ガ

## SDGs とのかかわり



7: 熱エネルギーマネジメント技術を活かし、エネルギー効率改善に貢献します。

9: さらなる環境性能追求のため、積極的にオープンイノベーションを推進します。新しい技術・製品を創出します。

11: 排気製品による大気の浄化技術で都市の環境負荷軽減に貢献します。

12: 製品ライフサイクル全体を通じて、CO<sub>2</sub>削減や廃棄物管理を推進します。

13: 全従業員が環境意識を持ち製品開発に活かします。

ス浄化触媒の活性化以外に活用することも検討しています。

## より省エネルギーな 空調システムの構築 [Climate Control Energy]

空調システムは、電気自動車を含むすべての自動車に必要不可欠なものです。しかし、消費するエネルギーが最も大きいことから、環境負荷に密接に関連しています。

日本では、2018年10月から燃費や大気汚染物質の排出レベル測定の国際標準試験方法WLTP\*1へ移行します。これまで、自動車カタログに記載している燃費には空調は含まれていませんでしたが、WLTPでは空調の使用も加味して燃費を算出します。

今まで以上に空調によるエネルギー消費の削減が重要視されていく中、空調製品・コンプレッサー製品における技術を培ってきた当社は、社会に大きな価値を提供できると考えています。たとえば、高エネルギー効率と小型・軽量化の両立を実現した「固定容量コンプレッサーCRシリーズ」は、業界トップクラスの性能を誇っています。

## 環境意識は全従業員に浸透

当社には、環境統括会議というグループ全体の環境活動を推進する会議体があり、その下に製品環境委員会というものがあります。そこで決められたCO<sub>2</sub>削減効果のある製品・技術の開発、適用拡大推進や、製品に関わる環境法令教育などにおいて目標値を持っており、各部署に落とし込まれています。さらに、開発戦略をつくる際に実施している「インプットセミナー」では、市場環境、お客さまの情報、技術情報などに加え、環境問題のトレンドや環境・安全関連の法規制情報を提供しています。全従業員が環境保全の意識を持ち、製品開発に活かしています。

## システムソリューションプロバイダーとして

エネルギーマネジメントドメインには、空調製品・排気製品・熱交換器製品・コンプレッサー製品・電子製品がそろっているため、車全体のシステムをトータルで提案できるという大きな強みがあります。たとえば前述の排ガスの熱利用では、暖房空調やエンジン暖機に活用することが考えられ、車全体のエネルギー使用量

を抑えることができます。

今後強化していきたいのは、各製品・システムをつなぐ、配管や送水ポンプ・各種バルブ等の技術です。より効率的に、トータルなシステムの提案をしていくためには、これらの技術の内製化も検討していく必要があります。

## オープンイノベーションの推進

自動車のシステムは発展スピードがめざましく、年々複雑化してきています。仕様検討の段階から当社にご相談いただく自動車メーカーも多いため、組織力と技術力をさらに高めていく必要があります。

そのためには自社内での研究開発だけでなく、オープンイノベーションも重要です。現在、産学官プロジェクトはNEDO\*2の「未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発」への参画や、多数の大学との共同開発など約40件が進行しています。新しい社会価値の創造に向けて、今後も独自の技術を活かして世界初の製品を創出していきますので、是非ご期待ください。

\*1:乗用車等の国際調和排出ガス・燃費試験法(Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure[WLTP])

\*2:国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

### Climate Control Energy

高効率空調コントロール技術



固定容量コンプレッサーCRシリーズ

### Electric Energy

電源マネジメント技術



インバーター

### PT Thermal Energy

PT効率向上サーマルマネジメント技術



板金タービンハウジング「CK-SMITH」

## Focusing Domains

## 注カドメイン:キャビンイノベーション (Cabin Innovation)

キャビンイノベーションドメインでは、  
キャビンに関わる幅広い製品群で培った技術と新しい技術を融合させ、  
新しいモビリティ社会に付加価値をもたらす、  
安心・安全で快適な車内空間の実現を目指しています。

## キャビンイノベーションドメインの製品群

- CPM・内装製品  
インストルメントパネル、コンソール、加飾フィニッシャー、ステアリングメンバー
- 電子製品  
パワーエレクトロニクス:HVAC用LIN通信モーターアクチュエーター、プロフモーター  
ボディエレクトロニクス:ボディコントロールモジュール(BCM)、キーレスシステム、ゲートウェイ(Gateway)  
ヒューマンマシンインターフェイス:メーター、集中コントロールスイッチ、エアコン コントロールスイッチ、乗員検知システム



カルソニックカンセイ株式会社  
グローバルテクノロジー本部 将来戦略技術開発部  
部長  
萩野 光明

### 自動化や情報化などの 市場環境の変化をいち早くとらえ 「新たな価値」を創造

キャビンイノベーションドメインでは、安心・安全で快適性の高い車内空間の実現を目指し、コックピットモジュールや、人間工学に基づいた見やすく使いやすいヒューマンマシンインターフェイスなどを開発しています。

### 安心・安全と操作性を両立

自動車部品メーカーとして「安心・安全」が

最重要なのはいまでもありません。  
当社はメーター製造の歴史が長く、視認性や視線移動に伴う安全性においてノウハウを蓄積しているほか、内部突起に対する独自の検証基準を持っており、これを遵守することで「交通事故による死傷者半減」の国際目標に貢献していきます。  
また、人間の特性を阻害しない、操作性の高いものにするには、どの地域でも、どの自動車メーカーにおいても共通の課題です。日本をはじめとして急激に高齢化が進んでいますが、高齢の方でも使いやすい製品をつくることは、全世代に使いやすい製品になると考えています。

2020年の実用化を目指し開発した「Human-Max REAL」は、これまでに培った安全性のノウハウや、快適な車内空間づくりの知見を活かしたコックピットモジュールです。接近車両や障害物、地域の情報などをディスプレイで分かりやすく表示するとともに、運転の楽しさを重視したデザイン・レイアウトを実現しています。

### 自動運転車の実用化を見据えて

自動運転車の実用化に向けて、各国で開発

が進められており、車の形態や作り方が大きく変化することは確実です。これまでの知見を活かして、自動運転車においても安心・安全で快適なインターフェイス、コックピットをつくっていきます。

自動運転車の安全性については、従来の車における検討に加え、自動運転車特有の事項を検討していく必要があります。たとえば、当社では、万が一システムが機能不全となった場合でも、ドライバーが危険な状況に陥らないよう、機能安全性を保证するシステム開発を推進しています。

### ニーズをより深く探索

当社は2017年3月に独立系モノづくり企業となりました。今後は特定の自動車メーカーのニーズにあわせた製品を開発するだけでなく、どのメーカーにも対応できる製品を開発していく必要があります。

2017年度に創設した商品企画室において製品戦略を策定し、メーカーの依頼にどのように対応するかだけでなく、主体的にメーカーニーズを探索し、さらにエンドユーザーのニーズ探索まで行っています。

## SDGs とのかかわり



3:視認性・視線移動ノウハウ、内装製品の独自の安全検証基準により、交通事故による死傷者半減に貢献します。

9:さらなる安全性追求のため、積極的にオープンイノベーションを推進します。

12:素材における環境配慮を通じて、CO<sub>2</sub>削減や化学物質管理を推進します。



### Human-Max REAL

グラフィックメーター、俯瞰画像で車両の接近を知らせます。両隣に配置されたアンビエントイルミネーションは危険度にあわせて点滅し、ドライバーに注意を促します。

## 情報化への対応と サイバーセキュリティの強化

2020年には次世代通信システムの5Gの実用化が予定されており、モビリティにおける「情報化」の動きが激しさを増しています。

一方、モビリティ市場のビッグトレンドであるコネクティビティに伴い、サイバーテロなどの社会課題が浮き彫りになってきています。当社は2017年7月に、フランスのQuarkslab社と自動車サイバーセキュリティのソフトウェア開発やコンサルティングを行う合同会社WHITE MOTIONを設立し、対応強化を図っています。

当社はもともとゲートウェイ\*という製品を有しているため、車内の接続と車外との接続の両方をコントロールする体制が整ったということです。そのような企業は少なく、今後大きな強みになると考えています。

\*車載ネットワークのドメイン間をつなぐCAN通信データ転送ユニット

## 環境に負荷を与えない モノづくりを目指して

当社は、幅広い製品群を有する総合的な自動車部品サプライヤーであるため、サプライチェーン全体を通じた生産効率化に強みを持っています。特に複雑な組み立て工程の効率化はカーボンフットプリント低減につながるため、今後も自動車メーカーと連携をとりながら、効率化を推進していきます。

また、素材面においてCPM・内装製品は合成樹脂を多く使用していますが、今後は強度が高く軽い植物由来の新素材「セルロースナノファイバー」の一部を採用することを検討しています。新規素材の採用時は、各国・地域の法令遵守はもちろん、経年劣化に伴い有害物質に変化しないかを綿密に分析・確認しています。製造過程における接着剤やハンダなどもその対象となっています。

## さらなる飛躍に向けて 2つのドメインの技術を融合

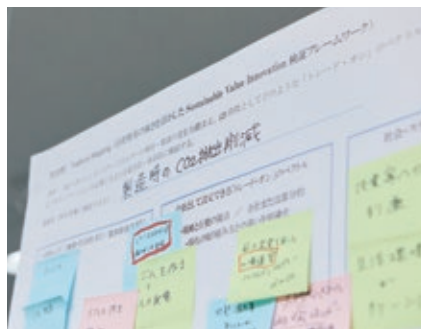
当社は、キャビンイノベーションドメインの技術と、エネルギー管理ドメインの双方で卓越した技術を保持していることが大きな強みで、グローバルでもこのような企業は少数です。現在、エネルギー管理で求められている空調システムの省エネルギー化において、キャビンイノベーションでは、たとえば熱を蓄積しない内装素材を開発することで、空調のエネルギー消費の抑制が可能になるなど、シナジー効果は無限にあると考えています。

今後は、この特長を活かし、2つのドメインの技術を融合させて、“カルソニックカンセイならではの”新製品開発と総合的なシステム提案を推進していきます。

## Employee Workshop

# 従業員ワークショップ

持続可能な価値の創造を目指して



2018年3月5日(月) カルソニックカンセイ本社にて実施

詳細は：[www.calsonickansei.co.jp/csr/social/stakeholder-engagement/employee/](http://www.calsonickansei.co.jp/csr/social/stakeholder-engagement/employee/)





## 若手従業員が持続可能な価値創造を考える

### 概要

グループ一丸となってサステナブルな価値を生み出すためには、従業員一人ひとりの意識改革が必要です。サステナビリティの視点を企業経営にどう反映すべきか、自身の仕事にどうつなげていくかを考えるため、開発、生産営業、管理部門などから次世代を担う若手従業員15人を集めワークショップを開催しました。

当日はリーダーシップ・アカデミー-TACL代表のピーター D. ピーターセン氏より、サステナビリティ（持続可能性）のメガトレンド、“トレード・オン”<sup>\*</sup>思考などについて講義を受け、その後グループごとに、どのようなイノベーションが自社に必要なかを議論し、アイデアをまとめました。

最後に参加者全員が講義とワークショップを通じての気づきを発表しました。今後は、参加者がインフルエンサーとなって、ここで得た気づきが各部門へと広がっていくことを期待しています。

## 「サステナビリティ」を実践していく

### ワークショップからの気づき

持続可能な価値創造が会社にもたらすメリットや、普段の業務と異なる観点で議論を通して、会社の将来への期待や自分たちが経営を担う時代に求められる価値の実感が持てた、などの声が聞かれました。

「自社にとっての社会課題をどのように設定するのが重要であり、そこが一番のチャレンジかと思います。」(生産技術センター 生産技術開発グループ 加藤恒平)

「自分の業務のどの部分がサステナビリティに貢献できているのかを今後は意識したいと思います。」(排気事業本部 排気生産技術グループ 大道則幸)

「サステナビリティのトレンドを率先してつくっていく立場になることが、中長期的には求められていると感じました。カルソニックカンセイグループはモノづくりの会社なので、顧客からの要望にどのように応えるか(How)で事業を考えがちですが、メガトレンドからどのようなイノベーションが必要なのか(What)を考えることが必要だと感じました。」(グローバルテクノロジー本部 リソースマネジメント・認証グループ 永嶋樹里)

「私は営業部に所属しているため、直接製品を開発し生産することはできませんが、お客さまと直につながっている部門として、ステークホルダーの期待や要請を持ち帰って整理し、社内でもどのように実現させていくかを考え、行動につなげていこうと思います。」(グローバル営業本部 第一カスタマーグループ 奥村美愉)

(従業員の所属部署は2018年3月末時点のものです)

## カルソニックカンセイグループに必要なイノベーションは？

### ワークショップから生まれた主なアイデア

- 気候変動、高齢化、都市化などのメガトレンドを踏まえ、地域と連携し1人乗りで安価な小型EVのインフラ化(カーシェアリングインフラ構築、メンテナンスなども担う)を図る。また、4人乗りを1人乗りにカスタマイズするなど、永久に乗ることができるクルマづくりを行う。
- 積極的な再生可能エネルギー導入を図るとともに、工場のエネルギー排出量を集計し、最も改善した工場を表彰するなどの動機づけを行う。
- 工場の溶接などの工程で発生する熱を回収し、別のサービスに利用して社会に還元する。

## 持続可能性向上への貢献を期待

### ワークショップを終えて

サステナビリティ視点で、カルソニックカンセイグループが今後どのような取り組みを推進すべきか、ワークショップを通じて建設的なアイデアを多く生み出すことができました。

これまで日々の業務との関連性を感じにくかった「サステナブル経営」という考え方が、参加者にとって、より身近なものになったのではないのでしょうか。

今後は、参加者がここで生み出したアイデアを具体的な行動に移していけるよう会社側が環境を整え、参加者自身も社内外とのネットワーキングを積極的に実施することで、自動車産業全体の持続可能性



ピーター D. ピーターセン

株式会社イスクエア 共同創業者  
リーダーシップ・アカデミー-TACL代表  
社団法人NELIS-次世代リーダーのグローバルネットワーク 共同代表

<sup>\*</sup>トレード・オン

企業の利益と社会価値創造が二律背反の関係(トレード・オフの関係性)になるのではなく、企業が社会価値の創造に貢献すればするほど、企業価値も向上すること。あるいは、良い企業が発展すればするほど、社会・自然環境の健全な営みが促されること(ピーター D. ピーターセン氏の定義による)

## CSR Policy and Key CSR Issues

# CSR方針と重要課題

## CSR方針

### ステークホルダーと社会への責任

カルソニックカンセイグループの「CSR方針」は、「コーポレート・ビジョン」を実現するために、すべてのステークホルダーと社会に対して実行をお約束する責任と指針です。この方針に基づいて、従業員一人ひとりが社会的責任を自覚し、誇りを持って日々の活動を行うこと、社会的側面、環境的側面、経済的側面からバランスの良い事業運営を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### お客さまへの責任

多様化する時代の要請と期待に応え、お客さまにご満足いただける質の高い製品とサービスを提供し、信頼されるNo.1サプライヤーを目指します。

### お取引先への責任

部品・サービスを提供していただくお取引先とイコールパートナーとして連携し、公正で倫理的な事業慣行を通じて、相互に競争力の向上と持続的な成長を図ります。

### 従業員への責任

従業員一人ひとりの多様性と価値が尊重され、より企業と社会に貢献できる人格育成の場と安全で健康な環境が提供されて、誰もが夢と情熱と誇りを持って豊かな人生を送れる企業づくりを目指します。

### 従業員の安全衛生責任

『従業員の安全と健康の確保はすべてに優先する』という基本理念のもとに、全員参加で業界トップの安全で適正な職場を実現します。

### 株主への責任

持続的に競争力ある製品を開発し収益の向上につなげるとともに、公正な事業運営と積極的な情報開示を行って企業価値を向上させ、株主の期待に応えます。

### 社会への責任

#### モノづくり

環境技術、安全技術、快適技術の3つの技術分野を重点課題として取り組み、製品を通じて車社会に貢献します。

**環境**：地球環境に優しい車づくりのために  
**安全**：事故の無い車社会づくりのために  
**快適**：快適に運転できる車づくりのために

#### 環境

従業員一人ひとりが常に自然の原点に立ち返るとともに、新たな技術統合による知的革新を通じて地球環境保全に努め、心豊かな社会の発展に貢献します。

#### 社会活動への参画・社会貢献

事業活動全般にわたり、かかわりのある地域社会や社会活動に積極的に参画し、良き企業市民として社会の持続的な発展に貢献します。

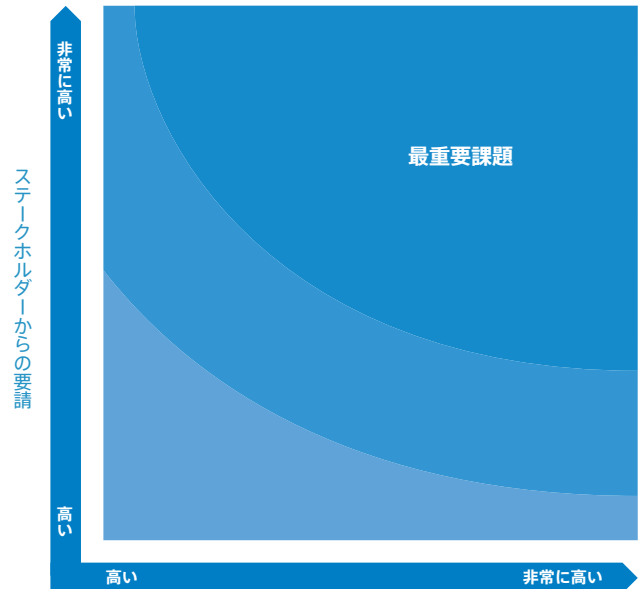
## CSR重要課題

カルソニックカンセイグループは、CSR中期計画の具体的なアクションプランとして、CSR重要課題とKPIを特定し、着実にPDCAを実施しています。2017年度は、2017年9月の新中期経営計画「Compass 2021」発表を受け、2015年度に特定したCSR重要課題の見直しを実施し、変化の早い社会要請への対応や、新しい経営計画へのアラインを図りました。

### カルソニックカンセイグループの重要課題(マテリアリティ)

2017年度に実施したCSR重要課題の見直しにあたり、最新の社会要請の動向を確認した上で取り組み内容の精査を実施した後、1. ステークホルダーからの要請、2. 事業へのインパクトの2軸での評価を行うことで、カルソニックカンセイグループが取り組むべき23の重要課題、および、そのうちの15を最重要課題として特定しました。また、課題項目ごとにKPIを設定し、それぞれの優先度に応じたPDCAを進めています。

### マテリアリティマップ



カルソニックカンセイグループの事業へのインパクト

### 最重要課題

#### 環境 Environment

気候変動対策  
 環境汚染対策  
 資源の有効活用

#### 社会 Social

サプライチェーンのESG向上  
 社会的価値を創出するイノベーション  
 人権尊重  
 労働安全衛生  
 ワークライフバランスの推進  
 ダイバーシティの推進  
 人財育成  
 お客さま満足度の向上  
 品質向上

#### ガバナンス Governance

ESGリスクマネジメントの推進  
 コンプライアンス強化  
 情報セキュリティの強化

# 2017 in Review

## 2017年度の主な成果

### サプライヤーデューデリジェンスの 展開社数

2017年度目標 220社



目標  
達成

2017年度

225 社

### 女性管理職比率\*



0.1% 増

2016年度

2017年度

2.3 %

2.4 %

### 水使用量原単位

2017年度目標 前年度比2%削減



目標  
達成

2016年度

2017年度

2.2 %削減

4.8 %削減

[水使用量原単位:水使用量/売上高]

### 行動規範教育・誓約率

2017年度目標 100%



目標  
達成

2016年度

2017年度

100 %

100 %

### 有給休暇取得率\*

2017年度目標 16日\*



6% 増

2016年度

2017年度

77 %

83 %

### 生産時 CO<sub>2</sub> 排出量削減率\*\*

2017年度目標 日本:20.5%削減 海外:15.8%削減  
[2005年度比]



目標  
達成

2016年度

2017年度

日本 ↓32.3 %削減

日本 ↓31.2 %削減

海外 ↓26.7 %削減

海外 ↓21.1 %削減

[排出原単位:排出量/売上高]

### お客さま満足度

2017年度目標 3.38 [最大5ポイント]



目標  
達成

2016年度

2017年度

3.36

3.43

### カルソニックカンセイグループのKPI [重要業績評価指標]

CSR重要課題ごとにKPI、目標、担当部門を設定し、それぞれの優先度に応じたPDCAを進めるとともに、毎年、自己評価を実施していきます。

\*当該年度の有給付与日数は入社後の年数によるため(入社初年度は16日)、社員一人当たりの年間有給取得日数にて年度目標を設定  
バウンダリー:★=カルソニックカンセイ単体、★★=日本:カルソニックカンセイおよび国内グループ会社、海外:海外グループ会社。その他はグローバル

Our Initiatives Across the Globe

## 海外リージョン報告

[中国リージョン]

多様な人材がいきいきと働ける  
職場環境づくりを目指して

世界第2位の国内総生産高<sup>\*1</sup>、13億人強の人口<sup>\*2</sup>、1,700万人を超える出生数<sup>\*3</sup>の大国、中国。カルソニックカンセイグループでは、持続可能な社会の実現に貢献するために、中国の各拠点において職場環境の改善、サプライチェーン全体での環境管理などをはじめとする、さまざまなCSR活動を推進しています。

\*1 \*2：中国国家统计局 webサイト「中国統計年鑑2017年度版」による

\*3：中国国家统计局 webサイト 2018年2月28日付のリリース(2017年統計公報)による



## 授乳期間中も安心して勤務できる職場環境づくり

中国では、国が定める産前産後休暇は98日間\*ですが、育児休業制度は定められていません。カルソニックカンセイ(広州)社(CKGH)では約10%の女性従業員が、子どもが1歳未満で職場復帰しています。

働く女性にとって、断乳して復帰するか、業務中にトイレなどでさく乳して母乳育児を続けるかは悩ましい問題です。そこで2017年度は、女性従業員が授乳期でも安心して働くことができるよう、社内にさく乳用の個室を新設しました。冷凍庫を完備しているため、さく乳した母乳を自宅に持ち帰ることもできます。今後も仕事と子育ての両立がしやすい職場環境づくりを目指し、従業員の声に耳を傾け、活動を推進していきます。

\*省によって異なる



カルソニックカンセイ(広州)社  
人事総務部  
張潔



カルソニックカンセイ(中国)社  
購買部  
孫青青

## サプライヤーの環境モニタリングを開始

カルソニックカンセイ(中国)社(CKC)では、自社内での環境負荷低減につながる活動はもちろんのこと、近年ではその活動範囲をサプライヤー(お取引先)にまで広げ、サプライチェーン全体での環境管理を推進しています。

購買部では、2017年度からサプライヤーの生産工場における定期的な環境モニタリングを開始しました。年単位でPDCAを回し、中国政府が定めた環境保護に関する諸認証の確認を行いました。中国では環境規制の強化が年々進んでおり、違反した企業は操業停止になるケースもみられます。この取り組みは、自社の環境意識を高めるとともに、安定した製品供給にもつながっています。

## 私のCSR宣言

カルソニックカンセイグループ従業員が、社内外問わず、自身で行うCSR活動についての宣言を紹介します。



康旭東

日常生活におけるエコ活動を登録し、一定の目標値を達成すると植樹申請ができる「アリの森」というプログラムを活用しています。2017年は、内モンゴル自治区と甘粛省で5本を植樹しました。2018年は、6本の植樹を目標として日々のエコ活動を推進します。



【欧州リージョン】

## 男女間の格差を解消し 次世代育成を推進する

欧州では、現代奴隷法や男女間格差を解消するGPG法など、英国を中心にCSRに関連するさまざまな法律が制定されています。法令遵守はもちろんのこと、さらなる活動推進に努めています。また、第2工場を建設中のルーマニアでは、次世代育成のための取り組みを推進しています。

### 男女間賃金格差の解消を目指して

英国では、従業員250名以上の企業は男女間の賃金と賞与の格差を毎年公表することが「2010年平等法 2017年(男女間賃金格差情報)規則(GPG法)」で義務づけられています。

カルソニックカンセイグループでは、組織のあらゆるレベルで役割に応じた賃金を確定しており、男女差をつけていません。

2017年度における平均男女間賃金格差はカルソニックカンセイ・サンダーランド社(CKSU)が3.63%、カルソニックカンセイ・ユークー社(CKUK)が3.65%となっており、英国企業全体の平均男女間賃金格差を大きく下回っていますが、上級管理職の女性は少ないのが現状です。

今後は引き続き人事評価制度の見直しを進め、賃金格差の把握と開示を徹底し、性別に関係なくリーダーシップと技術力を育成することができるよう推進していきます。



カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社  
Human Resources  
Manager  
Amanda Parry

### 工場実習を実施して次世代を育成

カルソニックカンセイ・ルーマニア社(CKRO)では教育機関と連携して、学生向けのワークショップなどのプログラムを実施しています。

2017年度は、14~18歳を対象に工場実習を行いました。CKROの実際の作業設備を使い、学校で学んだ理論を実践してもらう良い機会となりました。参加した学生からは「仕事のプロセスについて意識を高めることができた」「将来CKROに就職したい」などの声がありました。

国外就業者の多いルーマニアでは、国をあげて国内における就職率を高める施策が講じられています。今後は全国の教育機関と連携してプログラムを深化させ、次世代育成を進めるとともに、同国における雇用創出の一助ともなるよう活動を推進していきます。



カルソニックカンセイ・ルーマニア社  
Production Management & Support  
Manufacturing Trainer  
Daniela Ionescu



🇬🇧 Sian Phillips

ウェールズ政府、他企業、大学、訓練機関などとともに技術会議に参加し、自動車業界の仕事のプロモーションに努めています。



🇫🇷 藤沼 輝久

フランス事務所ではフランスに拠点をかまえる日本企業として、地域交流活動に積極的に取り組んでいます。2018年度も、このような貢献活動を続けていき、地域に信頼される企業イメージを根付けていきたいと思っております。

[米州リージョン]

## 誇りを持って 地域貢献活動に取り組む

米州では、地域に根ざした企業として、さまざまなコミュニティイベントに参画しています。行政等と連携した次世代育成にも積極的に取り組んでいます。



### 地域に密着した社会貢献活動を推進

カルソニックカンセイ・メキシコ社(CKMX)では、消防署と連携した防災訓練、闘病中の子どもや貧しい家庭の子どもへのクリスマスプレゼントの配布、病院への寄付、工場周辺の清掃活動、交通安全活動など、幅広い社会貢献活動を行ってきました。2017年には、これらの地域に密着した社会貢献活動が評価され、CEMEFI\*により「社会的責任を果たす企業」(ESR)に認証されました。当認証の有効期間は1年であることから、今後も活動を推進し、連続の認証を目指します。

\* CEMEFI(Centro Mexicano para la Filantropía)  
1988年12月に設立。メキシコにおいて、フィランソピー文化とCSRを推進し、社会参加の促進を目的として活動する民間非営利団体。



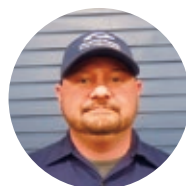
カルソニックカンセイ・メキシコ社  
Human Resources & Compliance  
Director  
Ricardo Ponce de Leon

### 児童・生徒に教育プログラムを提供

北米カルソニックカンセイ社(CKNA)では、シェルビービル・ベッドフォード郡商工会議所が推進する教育支援活動に参画し、小学校と高校において教育プログラムを提供しています。各自のSTEM\*活動を支援したり、「キャリア・デイ」と呼ばれる、自分の将来の姿を考えてもらうプログラムを実施することで、働くことの楽しさ、やりがい、社会において期待されていることを学習してもらいます。

地域の他の学校からも同様の活動を実施して欲しいと要請を受けており、今後活動範囲を広げていく予定です。

\* STEM  
Science, Technology, Engineering and Mathematics(科学・技術・工学・数学)の教育分野の総称。

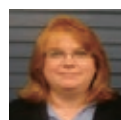


北米カルソニックカンセイ社  
Calsonic Kansei Production System Coordinator  
Jason Jones



 Tanya Snoddy

CKNAでは2017年度より米州リスク管理委員会を設置しており、CSR活動も推進しています。2017年度はISO26000をテーマに研修を実施し、CKNAのCSR活動との関連を説明しました。今後も積極的にCSR活動の社内周知を実施していきます。



 Shelly Bowers

高校生向けの就職フェアにおいてCKNAブースを出展しています。社内の教育プログラムを紹介するとともに、マウストラップカーづくりなどを通してモノづくりの楽しさを学んでもらいます。今後も引き続き次世代支援の活動へ関わっていきたく思います。

[アジアリージョン]

## サプライチェーン全体でのCSR意識向上を図り 環境保全活動で地域社会へ貢献

アジアにおける主要な生産拠点のひとつがタイです。従業員だけでなく、サプライヤーに対してもCSRビジョンを共有し、サプライチェーン全体でのCSR意識向上を目指しています。また、植樹活動をはじめとした環境保全などの活動を通して地域に貢献しています。



### サプライヤーとCSRビジョンを共有

カルソニックカンセイ・タイランド社(CKT)では、毎年「サプライヤーミーティング」を実施してサプライヤーとの連携を深めています。

事業を通じて社会課題の解決をさらに推進していくためには、サプライヤーとの協働が不可欠という考えのもと、2017年度はミーティングにおいてカルソニックカンセイグループのCSRの考え方や、CSRトレンドなどをお伝えしました。

今後は、営業や購買などの事業部門を通して、具体的な協働活動を進めていきます。モチベーションアップのために、活動がめざましいサプライヤーに対する表彰制度を創設することも検討しています。

### 植樹活動を通じて地域の環境保全を推進

カルソニックカンセイグループは自動車部品の製造という事業を通じて、CO<sub>2</sub>をはじめとする温室効果ガスの排出に深く関係しています。そこで、CO<sub>2</sub>排出がより少ない製品づくりを行うとともに、各地域で植樹活動を通じた環境保全を推進しています。CKTでは、チョンブリ地区とその周辺において植樹活動を実施しています。2017年度は従業員だけでなく工場地域の企業や顧客、サプライヤーとも協働で4,000本を植樹しました。植樹活動をはじめとした地域の環境保全活動が高く評価され、2018年3月には「環境とCSRのグッド・ガバナンスアワード2017」を受賞しました。

2018年度は10,000本の植樹を目指します。



カルソニックカンセイ・タイランド社  
Organization Promotion Division  
Vice President  
Chalavalai Wutthikornkriengkrai



カルソニックカンセイ・タイランド社  
従業員代表グループ



 Nadchaya Teansaguan

CKTがあるチョンブリ地区は、人気の高いビーチが並んでいます。美しいビーチを保つために、2018年度はビーチや自宅周辺で清掃活動に取り組みます。一人ひとりの活動は小さくても、活動の積み重ねが大きな結果をもたらすと信じています。



 Kanchana Inborisuth

私はさまざまなボランティア活動に参加することを通して、自身の意識を向上させるとともに、地域社会への関わりを深めています。2018年度はCKTの同僚と、タイの恵まれない学校をサポートする活動に取り組みます。校庭の整備や、本など学校の備品を寄付する予定です。

Highlights

ハイライト



[組織統治]

責任のある経営基盤の構築

カルソニックカンセイグループは、事業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーと良好な関係を築くことが重要であると認識しています。そして、社会から信頼され続ける企業であるために、CSRを強く意識したコーポレートガバナンス体制を整備し、遵法で倫理的な事業運営を徹底しています。さらに、「万一」のときにも安定的に製品を供給できるリスクマネジメント体制を構築しています。

2017年度の活動ハイライト

» CK

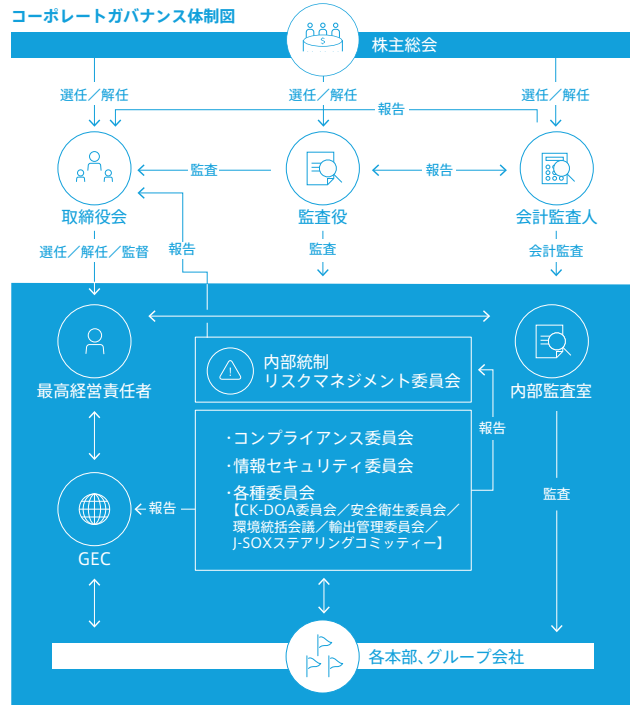
意思決定のスピードアップを目的に  
 コーポレートガバナンス体制を変更

カルソニックカンセイは、2017年5月8日をもって東京証券取引所第一部への株式上場を廃止しました。カルソニックカンセイ単体での意思決定のスピードを上げることを目的に、執行役員を兼務する取締役3名による取締役会と、監査役1名によるガバナンス体制を構築しました。

また、支配株主との関係については、KKR(Kohlberg Kravis Roberts) 100%出資会社、CKホールディングス(CKH)の100%子会社として、CKH取締役会の監督のもと、取締役会構成員の多様性の強化を図っています。

監査役は、取締役の職務遂行を監視するとともに、CKHの監査役と連携してグループ経営全般にかかわる業務執行を監査しています。加えて、外部監査人が会計監査を実施し、会計や会計にかかわる内部統制の適正・適法性について第三者の視点から検証しています。

以上により、コーポレートガバナンスの実効性を確保できると判断し、現在の体制を選択しています。



» グローバル

バリューチェーン全体で緊急時に備えるBCP  
 (事業継続計画)

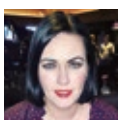
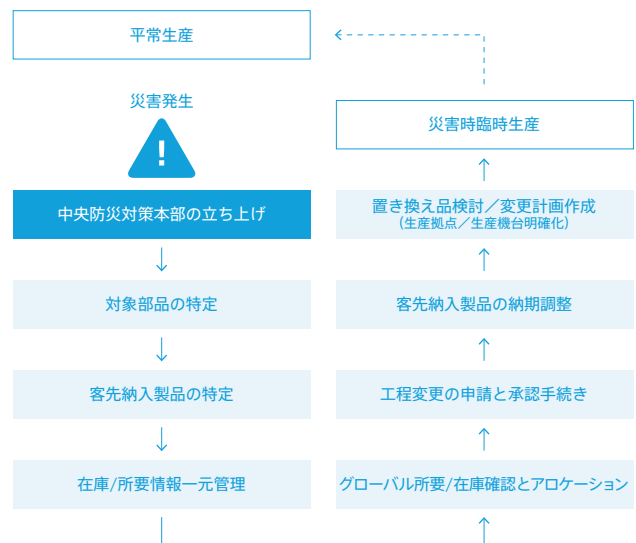
カルソニックカンセイグループは、地震や台風などの災害発生に対してBCPとして「防災管理規定」を設定し、この規定に基づき従業員がとるべき行動ガイド「全社防災マニュアル」を整備しています。

15カ国80の生産拠点を有し、数多くの自動車部品を製造していることから、災害発生時の生産復旧活動の中でもサプライチェーン確保が重要となります。そのため、BCPプロシーチャーを策定しています。

さらに、平常時においても、同一部品の複数工場への発注(マルチファブ)を一部の電子部品で実施しています。

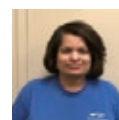
2017年度は、BCPにおけるサプライヤーとの協働体制をさらに強化するための検討を開始しました。具体的には、お客さま/サプライヤー/当社間における製品情報の紐付けの自動化、サプライヤーによるBCP実施状況の確認を海外工場を含めて実施しました。

BCPプロシーチャー



Vicki Manghan

地元の学生に対して、就職力を高めるためのスキルアッププログラムを提供しています。学生の就職の一助となることを願っています。



Jessica Truss

私は生産技師として働いており、安全で高効率な生産体制づくりに取り組んでいます。社内の安全研修は非常に有用で、業務に活かしています。2017年度は生産ラインの改善を実現しました。さらなる改善を目指します。





## [人権]

## 人権を尊重する企業風土の醸成

「カルソニックカンセイ行動規範」において、人権の尊重および多様性を明示するとともに、「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」を制定しています。人権の配慮に向けた従業員教育を徹底し、サプライチェーンへの人権尊重の浸透を目指したアクションをグループ全体で加速しています。

## 2017年度の活動ハイライト

## » グローバル

## 人権尊重の浸透のために

カルソニックカンセイグループは「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」を2016年4月に制定しました。さまざまな国・地域で、人種・文化などを尊重して業務を行っていき

う、グループ全従業員に対して人権方針を徹底するための教育・啓発を進めています。2017年度も、下記をはじめとするさまざまなアプローチで社内浸透を推進しました。



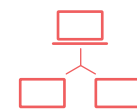
社内CSRニュースレターでの  
情報掲載



全従業員が閲覧する  
CSRハンドブックでの情報掲載



新入社員研修における人権研修  
約220名\*\*



世界人権デーにおける  
社内電子掲示板での告知\*

\*=カルソニックカンセイ単体、\*\*=日本:カルソニックカンセイおよび国内グループ会社、海外:海外グループ会社。

## » グローバル

## サプライチェーンの人権デューデリジェンス

サプライヤーに対し、人権に関する項目を含むデューデリジェンスのアンケート調査を実施しています。2017年度は主要サプライヤー225社に実施しました。

いただいたご意見・ご質問や各項の回答結果を分析し、各サプライヤーにフィードバックするとともに、CSR中期計画等にも反映していきます。



デューデリジェンスの  
アンケート調査

**225**社  
へ展開

※2018年3月19日現在

## » グローバル

## 英国現代奴隷法への対応

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社(CKEU)は、2016年度にはじめて英国現代奴隷法\*に対する年次ステートメントを公表しました。

2017年度も引き続き年次ステートメントを策定・公表し、社内での啓発活動を実施するとともに、サプライヤーにもデューデリジェンスや「サプライヤー-CSRガイドライン」の配布を通じて啓発に努めました。

強制労働、人身売買、法令違反となる児童労働などの予防に向け、イギリスだけでなくグローバルで取り組みを広げ、引き続きサプライチェーン全体において人権尊重の責任を果たせるよう努めています。

\*英国現代奴隷法(Modern Slavery Act 2015)

奴隷労働と人身取引がないことを担保するために実施した取り組みについて、年次でステートメントを作成・公開することを求める法律。英国で事業活動を行う営利団体・企業のうち、年間の売上高が3,600万ポンドを超えるものが対象となる。



中川 裕子

私は吉見工場において、看護師として皆さんの健康をサポートしています。一人ひとりが支え合い、幸せに働ける風土をつくりたいです。



呉海軍

2017年度は献血活動に2回参加しました。助け合いの心を持ち、より良い社会を実現するため、この活動を継続していきたいです。



## [労働慣行]

## 個と多様性を重視する組織づくり

カルソニックカンセイグループは、すべての従業員の共通の行動指針として「CK WAY」を、管理職の行動の基礎として「CKLC(CKリーダーシップコンピテンシー)」を設定し、グループ共通の価値観として、職場での実践に結び付けています。ダイバーシティやワークライフバランスを促進し、すべての従業員が活き活きと働くことができる職場づくりを目指すと同時に、一人ひとりの能力・多様性を活かすための評価制度や人財育成制度の充実を図っています。

## 2017年度の活動ハイライト

## » 日本

## 個の能力・多様性を活かす公正な処遇・評価

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社では、「CKLC」「CK WAY」を軸としたコンピテンシー評価をもとに年俸・賃金を改定し、個々人の業績評価に基づいてインセンティブ・賞与を支給しています。同一労働ランクにおける基本給、報酬総額での男女差はありません。

コンピテンシーは年1回、個人別業績は年2回、上司と部下との間で面談を行って達成度を確認しており、その中で評価のフィードバックと並行して個々人のキャリア形成についても論議しています。

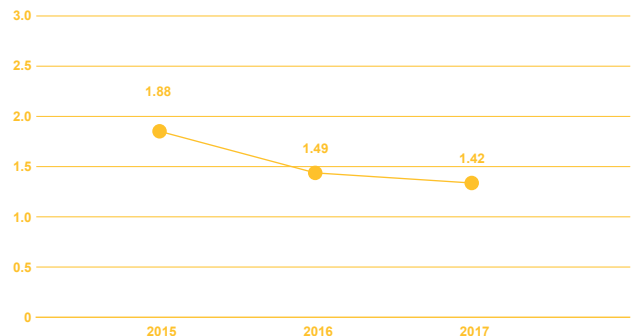
## » 日本/グローバル

## 労働安全衛生を推進

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社は、毎年課題を設定して労働安全衛生のレベルアップを図っています。2017年度は各事業所のTOP安全宣言を受け、前年度の振り返りを実施し、各事業所単位で弱み改善に取り組みました。また、労働安全衛生マニュアルを発行し、監査基準を構築しました。さらに、PDCA確認を目的として、今後は各事業所において年1回監査を実施することとしました。

2017年度の重大事故や死亡事故はありませんでした。グローバル全体での2017年度の度数率\*は前年度の1.49から1.42に減少しました。

\*度数率=100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

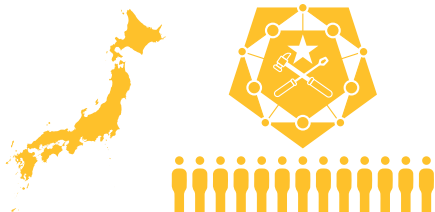


## » グローバル

## 個の能力を伸ばす人財育成

カルソニックカンセイグループは、会社の持続的な成長を実現するのは何よりも人財であるとの考えのもと、「モノづくり」「グローバル」に重点を置いた人財育成を行っています。

13名  
の技能マイスター



## 技能マイスター制度 (CKのみ)

2018年2月に開催されたマイスター認定委員会にて、新たに1名が認定され、現在13名がマイスターとして活躍しています。

## モノづくり人財

グローバル競争の中で鍛えられたモノづくりをさらに高め、それをグローバルに水平展開していくため、カルソニックカンセイのモノづくりの基本であるCKPS(カルソニックカンセイプロダクションシステム)研修や各種専門技術研修などを通じて、知識・技術習得を計画的に行っています。また、モノづくりに必要な技能を明確にするため、技能マイスター制度を導入しています。

## グローバル人財

次世代のグローバルビジネスリーダーを育成することを目的に、日本を含む各国・地域のリーダー候補を対象に英語による集合研修を行うGBLT(グローバルビジネスリーダートレーニング)を毎年実施しています。

また、グローバルなモノづくり人財を育成するため、各国・地域の工場長ならびに工場長候補者を対象にグローバル工場長研修も行っています。



● 小田嶋 絵美

私は、ダイバーシティ推進チーム「shine.net」の一員として、従業員にとって働きやすい環境づくりを目指していきます。



■ Nuchjaree Jaiiak

恵まれない子どもたちや障がいのある方を支援するため、チャリティ活動に取り組んでいます。たとえば、ブルタブを集めて義肢団体に寄付する活動などを行いたいと考えています。

## » グローバル

### ダイバーシティの推進

多様な価値観を持つ従業員が健全なコンフリクトを通じて、新たなイノベーションを生み出すことが、企業の成長・個人の成長につながるの考えのもと、ダイバーシティ推進をグループ全体の重要な経営戦略のひとつとしています。

## » 日本

### 女性がより活躍できる会社へ

カルソニックカンセイは、出産・育児といったライフステージを抱える女性が、持てる能力を最大限発揮できる職場や働き方の実現を目指し、従業員の意識調査、働き方向上委員会、ダイバーシティ推進チームによる従業員の声の集約などを行いながら、諸施策に反映させています。女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画において、2021年3月末までに女性管理職数を2016年3月末時点(15名)から倍以上に引き上げる計画を掲げています。



**産後復帰率**  
**100%**



**くるみんマーク**  
「子育てサポート企業」に認定され次世代認定マーク「くるみん」を2015年に取得



**えるぼしマーク**  
女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良な企業に与えられる「えるぼし」の最高段階の認定を2016年に取得



**多様な働き方実践企業(埼玉県)**  
2012年、埼玉県が推進する「多様な働き方実践企業認定制度」の認定企業に選出

## » CK

### 従業員データ

	2015	2016	2017
正社員数 [人]	3,643	3,741	4,056
男性 [人]	3,352	3,419	3,657
女性 [人]	291	322	399
平均年齢 [歳]	44.4	44.2	43.7
勤続年数 [年]	19.4	18.3	17.5
離職率 [%]	1.0	1.3	1.2
平均給与 [円]	6,237,718	6,394,249	6,293,193
障害者雇用率 [%]	1.93	2.07	1.99
育児休業者 [人]	13	14	18
介護休業者 [人]	0	1	1

## » 日本

### ワークライフバランスを奨励

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社は、社会構造の変化とともに年々多様化している従業員のライフスタイルを支援するため、制度の整備を進めています。次世代育成支援対策推進法に基づいた諸施策においては、法定水準を上回る制度を整備しています。

#### 出産



##### 産前産後休暇

出産日からさかのぼり6週間、ただし多胎妊娠の場合は14週間、出産後が産日の翌日から起算して8週間休暇の取得が可能



##### 健康検診等にかかる措置

申し出があれば、妊娠中または出産後1年以内において保健指導および健康診査のために必要な時間は就業を免除

#### 介護



##### 介護休職制度

入社1年未満の従業員も介護休職を取得可能(法令では1年未満の従業員は対象として除外可能)



##### フレックス制度

8時30分から17時30分までの間で最低1時間以上の勤務をすることのみを条件とし、コアタイムの無いフレックス制度を導入

#### 育児



##### 育児休業

子が満2歳に達した次の4月まで休職可能(法令では1歳6か月まで)



##### 定期面談制度

育児休業中の従業員が復職しやすいように面談を設定



##### 育児のための短時間勤務

小学校卒業年まで短時間勤務可能(法令では小学校3年まで)



##### 福利厚生プログラム

約2万のプログラムからライフスタイルに合わせサービスを選んで受けられる制度を2018年度に導入予定です(従業員とその家族が対象)

## » グローバル

### 働き方改革

業務の生産性向上と、高付加価値化、多様な働き方の実現による満足度の高い職場環境を目的に、2017年度から「働き方改革」に本格的に取り組んでいます。具体的には海外との会議可能時間の設定と会議開催時のルール徹底、

ICTの活用、間接部門を中心とした業務の徹底的な効率化、各種手続き・プロセスのシステム化を進めています。



#### 北米カルソニックカンセイ CKPS(Calsonic Kansei Production System) 従業員グループ

がん患者とその家族を支援するイベント「リレー・フォー・ライフ」に参加し、寄付を行っています。このイベントでは夜通しでリレーマラソンをします。がん患者は疲れて休まることがありません。リレーをすることで、一晩だけ私たちも同じ体験をします。今後引き続き参加し、少しでも多くの人々を支援できればと思います。



#### Katina McCoy

2017年5月に稼働したカントン工場は、自動車メーカーの製造拠点に隣接しており、効率のよい生産・輸送を実現しています。さらに同工場では、段ボールとプラスチックのリサイクル方法を確立したり、汚染雨水流出防止の取り組みに対し州環境品質局から非暴露証明書を取得するなど、地域と環境に配慮した運営を推進しています。



## 【環境】

### 環境への取り組み

カルソニックカンセイグループは、環境保護への取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献することが重要であると認識しています。パリ協定を始めとする国際社会からの企業に対する環境配慮の要請に応えるため、従業員一人ひとりの環境意識向上を図り、環境配慮型製品の創出や、事業活動による環境負荷の継続的な低減に取り組んでいます。

## 2017年度の活動ハイライト

### ※ グローバル

#### 「CKグリーンポリシー」(環境方針)

カルソニックカンセイはグローバルでの企業活動を通じた環境保護に向けた取り組みをさらに強化するため、2000年度に制定した環境方針を2017年度に環境基本方針と環境行動指針からなる「CKグリーンポリシー」として改訂しました。

これに基づき、全員がワンチームとなって環境活動に取り組み、カルソニックカンセイのビジョン(企業理念)に掲げる持続可能な社会の実現に貢献していきます。

#### 「CKグリーンポリシー」(環境方針)

##### 環境基本方針

企業活動の全段階において一人ひとりが環境保護に努め、持続可能な社会の実現に貢献する。

##### 環境行動指針

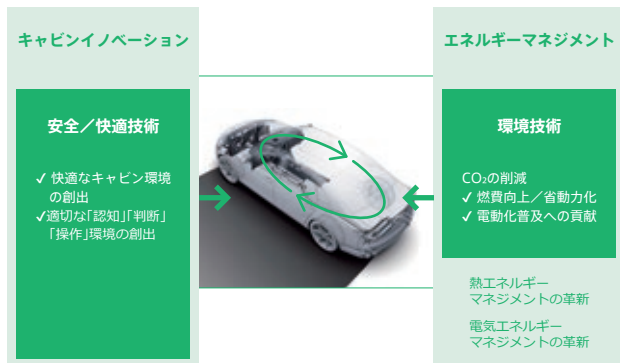
- ・コンプライアンス・社会的要求・長期ビジョンに基づき、年度方針を定め、目標達成活動と環境マネジメントシステムをグローバルで継続的に改善します。
- ・ライフサイクルを考慮し環境に配慮した製品の開発を推進します。
- ・汚染の予防と環境法令等の順守に努めることはもとより、企業活動により発生する環境負荷の低減を推進します。
- ・ステークホルダーとのコミュニケーション、および地域や政府・自治体との環境保護に関わる連携・協力・参画を推進します。
- ・サプライチェーン全体での環境負荷の低減に向けて、関連会社だけでなく、お客さまやお取引先との連携・協力関係を構築していきます。

### ※ グローバル

#### エネルギーマネジメントの革新を推進

2016年度までの中期経営計画「CK GX4 T10」では、成長戦略のキーのひとつとして「Green」を掲げ、世界をリードする次世代環境技術/製品を10種以上創出することを目指し、2016年度末までに製品化を実現しました。

2017年度からは、新中期経営計画「Compass 2021」のもと、注カドメインのひとつの柱としてエネルギーマネジメントを推進することを掲げました。インバーター、バッテリーマネジメントシステムといった世界一の量産実績を誇る電力マネジメント技術と、熱マネジメント技術を活かして、総合的にエネルギーをマネジメントしています。さらに、電気自動車などの環境負荷の少ないモビリティをより身近なものにするための技術開発や、排ガスの浄化、燃費性能の向上に寄与する製品の開発にこれまで以上に取り組んでいます。



#### エネルギーマネジメントに代表される製品



##### 板金タービンハウジング「CK-SMITH」

排ガス浄化性能、燃費性能向上

##### 【役割】

自動車向けエンジン用ターボチャージャーのタービンハウジングです。排ガス温度低下を抑制し、触媒昇温性能を向上させています。加えて、軽量化により排ガス浄化性能だけでなく燃費性能を向上させ、大幅な環境改善に貢献します。

##### 【製品の強み】

CK-SMITHは薄肉のステンレスプレス部品を採用しています。これにより、ガス通路と魔法瓶のような二重管構造を形成させています。この製品の量産化は、排気部品の二重管エキゾーストマニホールドの設計・実験・生産技術(プレス、溶接技術)に加え、ターボチャージャー製品として要求される高精度な機械加工技術や計測技術を融合することで実現しました。

#### ベーンロータリー式固定容量コンプレッサー「固定容量コンプレッサー-CRシリーズ」

高エネルギー効率で小型・軽量 (→p.12)

#### インバーター

ガソリンに代わる車の動力 (電動化普及への貢献)



**Alexandra Kirsanova**

水銀灯の使用削減に取り組んでいます。以前は生産現場やオフィスで多くの水銀灯が使われていました。水銀灯をすべてLED照明に変えることでゴミが減り、地域の環境への影響が軽減されます。同時に、生産ラインの明るさも改善されました。



**李霞**

3月の植樹節にあわせて、地域社会に貢献するという理念のもと、皆とともに植樹やボランティア活動に取り組みました。2018年度も取り組みを継続します。

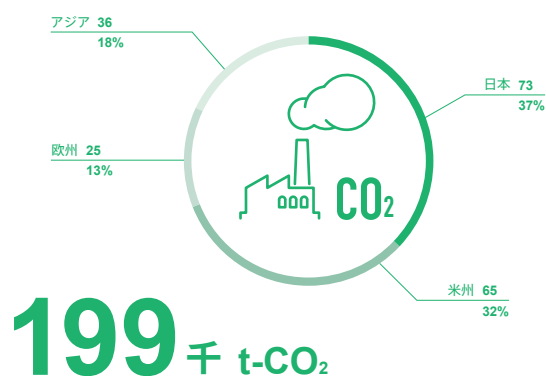
## » グローバル

### 気候変動への取り組み

低炭素社会の実現に向けてカーボン・ミニマム(環境負荷低減活動)に取り組んでいます。2017年度のCO<sub>2</sub>総排出量は、19.9万t-CO<sub>2</sub>となりました。

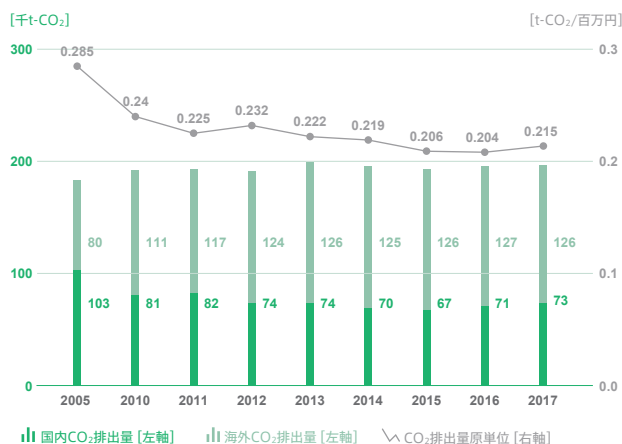
### カルソニックカンセイグループの地域別CO<sub>2</sub>排出量

[単位:千t-CO<sub>2</sub>]



排出原単位(CO<sub>2</sub>排出量/売上高)では、日本は2005年度比20.5%削減、海外は15.8%削減を目標に活動を推進し、2017年度は日本が31.2%削減、海外が21.1%削減とそれぞれ目標を達成しました。

### カルソニックカンセイグループのCO<sub>2</sub>排出量と排出原単位推移



## » グローバル

### 資源循環/3R (Reduce, Reuse, Recycle)を推進

資源の有効活用を重視し、排出物削減と埋立率ゼロ (Zero Landfill) に取り組んでいます。2017年度より、カルソニックカンセイの樹脂加工技術を活用し、自社での物流用ポリ容器の再生・利用を開始しました。従来廃棄されていた物流用ポリ容器を自社で再生することによって、排出物削減はもとより、リサイクル樹脂材利用の技術向上につながっています。また、グローバルで各工場における工程不良低減活動および省資源化を継続して推進したことにより、2017年度も中期目標を達成することができました。

排出物原単位  
[排出量/売上高]

日本

**-24.8%**

2017年度目標 -19.7%  
[2005年度比]

海外

**-16.9%**

2017年度目標 -6.9%  
[2010年度比]

埋立率ゼロ  
[埋立量/廃棄物量]

日本

**0%**

2006年度以降、継続的に達成

海外

**0%**

2017年度目標 埋立率ゼロ維持

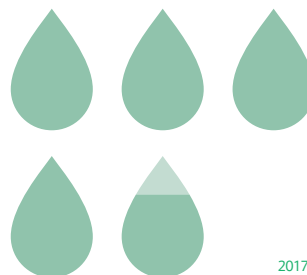
## » グローバル

### 水使用量削減の取り組みを強化

水資源の保護の観点から水使用量の削減に取り組んでいます。2014年度からグローバルでのモニタリング体制を構築したことにより、特に水使用量の多い生産拠点や課題となる設備の特定につながりました。2017年度は、水使用量削減に寄与する設備の更新や水洗トイレでの効率的な水利用システムの採用など、グローバル拠点でのさまざまな取り組みにより、水使用量原単位を4.8%削減することができました。

水使用量原単位  
[水使用量/売上高]

2017年度



**4.8%** 削減

2017年度目標 グローバル -2.0%  
[2016年度比]



#### ● 村上 幸聖

私は、日々の業務をとおして無理のない省エネ・分別を推進し、環境保護の意識を持つことを目標にしています。



#### ● 江森 智哉

私は安全な職場の実現と高品質な製品の創出のために関連部署と知識や経験を融合し、現場改善に努めています。ヒヤリハット情報を定期的に現場から吸い上げ、不安全状態・行動の撲滅を目指します。誰もが働きやすい職場づくりにもチャレンジしていきます。



### [公正な事業慣行]

## 行動規範をベースにコンプライアンスを実践

カルソニックカンセイグループは、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンスを実践することが重要であると認識しています。2003年の「カルソニックカンセイグローバル行動規範」制定を機に、グローバルなコンプライアンス体制の強化に向けて従業員の教育・啓発を徹底しています。また、サプライヤーとのコミュニケーションを強化し、サプライチェーン全体で取り組みを推進しています。

### 2017年度の活動ハイライト

#### » グローバル

### コンプライアンス教育をグローバルに展開

カルソニックカンセイグループは、各リージョンの言語で作成された行動規範のトレーニングを毎年実施して誓約書を回収することで、コンプライアンスに対する意識づけを強化しています。2017年度の誓約書回収率は、国内・海外ともに役員含め100%となりました。

また、行動規範の教育の一環として、グローバルリスクとしての「独占禁止法」および「賄賂防止法」に関する教育も適宜実施しています。これらの2つのリスクに関しては、グローバル、国内拠点、海外拠点でそれぞれ基本ポリシー・ルールを策定し、グループ全社において周知と啓発を行っています。2017年度は、全員参加型の教育のほか、日本での独占禁止法の役員研修を実施しました。



日本での独占禁止法の役員研修

#### 賄賂防止法研修受講者数(2017年度)

日本	米州	欧州	中国	タイ	マレーシア	計
4,863名	362名	107名	99名	67名	373名	5,871名

#### 内部通報件数(2017年度)

347件

内部通報制度の周知を徹底し、通報者が不利益を被ることがないように慎重に対応しているため、2015年より毎年通報件数が上昇傾向にあります。

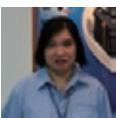
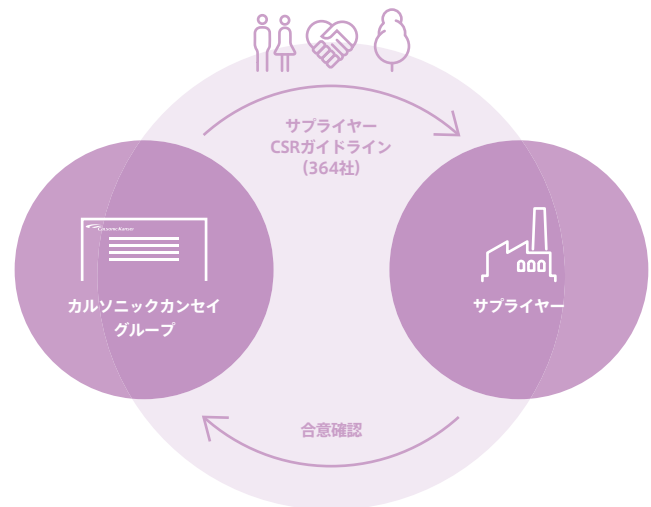
#### » グローバル

### サプライチェーンにおけるCSR推進

カルソニックカンセイグループの事業展開に伴い、サプライチェーンもグローバルに広がる中、CSR活動を推進するために私たちの考え方や方針をサプライヤーと共有しながらCSRマネジメントの向上を目指しています。日本においては「サプライヤーCSRガイドライン」を展開して賄賂防止などコンプライアンス徹底への周知をお願いするとともに、CSRデューデリジエンスを実施し、カルソニックカンセイグループで定めたCSR重要課題に対する取り組み状況の把握に努めています。

2017年度は、紛争鉱物対応などの要請を新たに追加した改訂版「サプライヤーCSRガイドライン(日本語・英語)」を364社へ展開し、「合意確認」を取り交わしました。また、7項目80問に及ぶ「サプライヤーデューデリジエンス調査」を225社に対して実施しました。

今後も引き続きサプライチェーンを含めたCSR活動を推進していきます。



**Suvimon Lamaimuang**

貧しく教育機会に恵まれない子どもたちの生活を改善するチャリティプロジェクトに取り組んでいます。



**杨欢**

家族で植樹活動に参加しました。今回は3人で3本の苗を植えたのですが、少しでも環境保全に貢献できてうれしかったです。今後も続けていこうと思います。



### [消費者課題]

## 高品質で安全な製品の提供

カルソニックカンセイグループが重視する「品質」とは、安全性や耐久性の確保、快適性の実現も含む、多様なお客さま、そして社会の期待に応えるためのものです。この考えに基づき、品質を会社全体の最重要課題と捉え、営業・購買・開発・設計、生産、物流などすべてのプロセスで高い品質を提供するために活動を続けています。また、お客さまとの対話を積極的に実施し、お客さま対応力の向上にも注力しています。

### 2017年度の活動ハイライト

#### » グローバル

### 新国際品質基準にいち早く適合



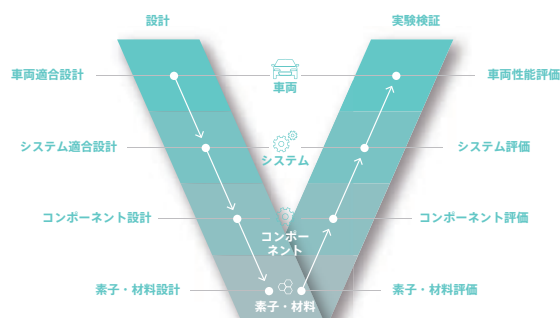
品質保証システム(右)の「車両」階層における実験検証の一つである「EMC試験」

カルソニックカンセイグループは、品質・信頼性に関する技術力の向上に率先して取り組んでいます。

国際的な自動車産業品質マネジメントシステム規格であるISO/TS 16949の改正に伴い、新規格 IATF 16949への品質マネジメントシステムの適合およびグローバル全拠点での認証取得に向けて活動を推進しています。2017年度は16拠点の認証取得を完了しており、2018年9月までに全拠点での認証取得を完了する予定です。

また、世界の市場環境を調査し、最新鋭の設備と実験評価技術により市場環境を再現し、「車両」「システム」「コンポーネント」「素子・材料」の4つの階層で製品開発を行うことで、高い開発品質を確保しています。

開発品質保証プロセスを確実に実行し、安全性や耐久性が高く、お客さまが満足される製品開発を追求しています。

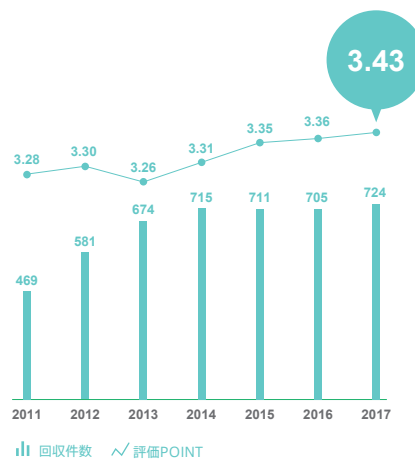


4階層からなる開発品質保証プロセス

#### » グローバル

### お客さまの声を改善に活かす

カルソニックカンセイグループは、車社会のモノづくりをととして業界をリードし、さまざまな価値を提供し続けていきたいと考えています。お客さまのニーズに即した、高品質で競争力のある「モノづくり」にまい進するとともに、お客さま対応力の向上にも注力しており、2005年より年に一度「顧客満足度調査」を実施しています。「顧客満足度調査」は、品質・価格・納入・開発・マネジメント・営業活動(QCDDMS)の各項目に5段階の評価づけと具体的な改善要望のコメントをいただく形式で実施しています。2017年度は724件の回答を得ることができ、評価は、3.43ポイント(5ポイントが最大)で過去最高となりました。この調査を接点としてお客さまとのコミュニケーションをさらに充実させ、顧客満足度の向上を目指します。



#### ● 菊地 俊嗣

私は「安心・安全な商品やサービスの提供」をモットーに業務を推進しています。設備出荷前の安全確認を十分に実施し、設備導入後もきめ細かなサポートをしています。



#### ■ 何晏飛

会社のアウトドアスポーツ好きが集まり、ハイキングをかねて山間の美化活動を行いました。歩くことで健康増進にもつながりました。



[コミュニティ参画・開発]

## 地域社会への貢献

企業には、事業を通じて接点を持つ多様なコミュニティとの共存共栄関係を構築することが、サステナブルな社会づくりの観点から求められています。カルソニックカンセイグループは、企業市民の一員として、未来を担う次世代の支援や地域社会のコミュニティ活動などに積極的に参画し、グループの特徴やノウハウを活かした社会貢献を多面的に展開しています。

### 2017年度の活動ハイライト

» グローバル

#### グローバルで社会貢献活動を強化

カルソニックカンセイグループは、より良い社会づくりに貢献するため、4つの領域を軸に、グローバルで社会貢献活動の拡充を進めています。拡充にあたってはステークホルダーからの要請や対話を重視し、地域の発展や社会課題の解決への貢献を目指しています。



次世代支援



安全



環境



コミュニティ / 地域社会

» 日本

#### 未来のモノづくり人財を支援

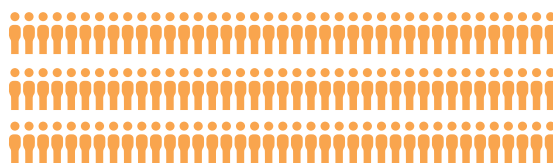
カルソニックカンセイおよび国内グループ会社の社内の公募スタッフで構成された「Team SKETT」を通じて、小学生を対象にさまざまなモノづくり体験の機会を提供しています。

公益社団法人自動車技術会主催の小学生向け体験型展示会「キッズエンジニア」には2008年の初回より毎年出展しています。

2017年度は、名古屋で開催された「キッズエンジニア2017」、仙台で開催された「ミニキッズエンジニアin東北」を通じて3,000人以上の参加者にコックピットモジュールの組み立てなどに挑戦してもらい、モノづくりの楽しさを学んでいただきました。また、日本自動車会議所主催の「親子キッズエンジニア」にも出展し、300人以上の参加者に工作体験をしていただきました。

2012年よりスタートした小学校向け出前授業では、2017年度中に16以上の小学校で800人以上の小学生に理科の楽しさをお伝えしました。

キッズエンジニアの参加人数(2017年度)



3,000人  
以上

小学校向け出前授業



16  
以上の小学校へ出張

800人  
以上の小学生が参加



**Kaythirat Lerddaratsamee**

同僚とともに「Friends helping Friends Project」に取り組み、恵まれない子どもたちの支援を行っています。学校にトイレを新設し、校庭の整備ができるよう、2018年度はより多くの資金を集めたいと思います。



**贾力新**

私は過去5年間、年2回の献血を続けました。これまでの献血量は4,000mlを超えました！これからも献血活動をやり続けていこうと思います。



## Third-party Opinion

## 第三者意見

シンクタンク・ソフィアバンク 代表  
藤沢 久美氏

### 読み手を意識した、 こだわりのレポートへの進化

昨年度に続き、サステナビリティレポートを拝見する機会をいただき、一段と工夫された内容と世界各地の読み手を意識した細部へのこだわりなど、皆さんの真摯な努力がうかがえました。加えて、「持続可能な価値創造プロセス」の図表に中期経営計画の柱が盛り込まれ、日々の仕事に取り組みながら価値プロセスを意識できるものになり、評価に値する進化です。

### マインドセットの浸透を実感

今年度、最も目を引いたのが、「独立性と主体性」というマインドセットが、社内で形になってきていることがレポートを通じて実感できる場所ではないでしょうか。新たな経営者を迎え、80年先を見据えた持続性ある経営が宣言されました。当レポートでは、その実現に向けて取り組むべきことが、CSRやSDGsという個別の観点でのみ語られるのではなく、事業と紐付けて示されていることは高く評価すべき点です。それは、注カドメインごとの担当者からの解説であったり、世界各地での取り組みの紹介であったり、そ

れぞれが自社の事業に誇りを持ち、主体性を持って、持続性の要素や観点を軸に取り組んでいることが伝わってきます。また、それぞれの取り組みを通じて、カルソニックカンセイの仕事を知らない人が読んでわかりやすく、事業内容とサステナビリティの関係性が理解できる内容となっています。

### 世界各地の仲間が より公平に活躍できる土壌へ

さらに、昨年度に続き、世界各国の従業員の方々の取り組みが「私のCSR宣言」として紹介されていますが、そこにもまた、各地の文化や慣習に立脚した独自の取り組みが主体的に行われていることがわかりますし、こうした各地で異なる取り組みが、このレポートを通じて、全国各地の従業員の皆さんの知恵の共有の機会となり、さらに各地での取り組みの進化へとつながることを願います。来年度は、ぜひ、当レポートを通じて、各従業員の皆さんがどのように行動や取り組みを変化・進化されたかという声も伝えていただくと、当レポートを継続的に読む楽しみとなると思います。こうした世界各地からのメッセージや社内の制



度の紹介を拝見する中でひとつだけ気になったのは、日本独自の制度説明に割くスペースが海外の説明に比して大きいことです。日本本社の会社ではありますが、世界に仲間を持ちダイバーシティを標榜される企業ですので、グローバル共通の取り組みを中心に据え、各国独自の取り組みを同等の割合で紹介できるように、地域差の無い社内制度の見直しが進むことを期待します。

当レポートのダイジェスト版がきっかけとなり、より多くの方々がウェブサイトへアクセスされることを期待します。また、従業員の皆さんがさらに充実した取り組みや考え方を日々の仕事に活用され、来年度は、これまで以上に現場からの声を中心となり、変化を実感できるレポートになることを楽しみにしています。

### プロフィール

国内外の投資運用会社勤務を経て、日本初の投資信託評価会社を起業。同社を世界的格付け会社に売却後、シンクタンク・ソフィアバンク設立に参画。1,000社を超える経営者インタビューやダボス会議等を通じて、国内外の官民協働支援に取り組む。



### 第三者意見を受けて

カルソニックカンセイ株式会社  
副社長執行役員 (EVP) 兼 CSO (最高戦略責任者)  
渡部 英朗

昨年度に続き、藤沢さまより、当社グループのサステナビリティレポートについて貴重なご意見をいただき、厚く御礼申し上げます。昨年ご指摘いただきました点について改善に努めてまいりました結果、一定のご評価をいただくことができ、ありがたく受け止めております。2017年度は、日産から独立し、新しい中期経営計画(中計)を始動させました。本中計では、経営基盤の一つにCSRを掲げ、経営とCSRの融合をさらに深化させることを目指しています。「持続可能な価値創造プロセス」は当社グループの提供価値とSDGsへの貢献を具現化したものです。当社は今年で創立80周年を迎えますが、今後もイノベーションの創出、環境保全や倫理的な企

業活動などの社会的要請に応え、次の80年に向けて社会とともに持続的に発展する企業となるべく、努力を続けます。ご指摘いただいた、「地域差の無い社内制度の見直し」については、グローバルCKとして「ワンチーム」となるよう、より一層強化していきます。世界中の従業員一人ひとりの声を大切にし、ステークホルダーの皆さまに、より支持される企業を目指して、取り組みを進めてまいります。

## 会社概要

会社名称	カルソニックカンセイ株式会社
本社所在地	埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
主要な製品	コックピットモジュール、フロントエンドモジュール、エキゾーストシステム、エアコンユニット、コンプレッサー、メーター、ラジエーター
グループ会社数	連結:34社*1
従業員数	連結:22,678名*2
主なお客さま (50音順)	アウディ社、いすゞ自動車株式会社、GM社、GEELY社、スズキ株式会社、株式会社SUBARU、ダイハツ工業株式会社、タイムラー社、日産自動車株式会社、日野自動車株式会社、フォルクスワーゲン社、プジョー社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、三菱自動車工業株式会社、UDトラックス株式会社、ジャガー・ランドローバー社、ルノー社

\*1: 2018年5月末日時点  
\*2: 2018年3月31日時点



## 編集方針

### 本レポートについて

カルソニックカンセイグループは、サステナビリティに関する情報開示の一環として、また、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールのひとつとして、2014年より「サステナビリティレポート」の発行を開始し、当社グループの考え方やさまざまな取り組みを、日本語と英語にて報告しています。

2017年版からは、タイムリーに情報発信ができ、ステークホルダーの皆さまが必要な情報によりアクセスしやすくするため、webサイトに詳細情報をまとめています。本冊子は、初めてご覧になる方にも当社グループのサステナビリティについて親しんでいただけるよう、報告内容をコンパクトにまとめたダイジェスト版です。

2018年版は、経営にサステナビリティの考えを統合し、新たな価値を創造するカルソニックカンセイグループの「持続可能な価値創造プロセス」を新たに掲載しています。また、新中期経営計画とともに、注カドメインによるSDGsへの貢献を明確化することで、事業とサステナビリティとの関連性をより深く理解いただける構成としています。

今後のサステナビリティに向けた活動のさらなる進展のために、ステークホルダーの皆さまからの忌憚のないご意見をお待ちしています。



webサイトCSR情報ページ  
[www.calsonickansei.co.jp/csr](http://www.calsonickansei.co.jp/csr)

### 対象範囲

カルソニックカンセイ株式会社およびグループ会社

### 対象期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)を中心に掲載

### 発行時期

2018年6月(前回:2017年6月、次回:2019年6月予定)

### 参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」  
環境省「環境報告ガイドライン 2012年度版」

### 環境・社会・経営に関する各種原則などへの賛同

国連「国際人権章典」、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」、「国連グローバルコンパクト」、「労働の基本原則及び権利に関するILO宣言」、「ISO26000(社会的責任に関する手引)」、(社)日本経済団体連合会「企業行動憲章」などが示す活動内容に賛同し、重要な経営指標として実現に向けた取り組みを行っています。

### 第三者保証・意見

第三者保証・検証は未実施

CSR、ESG(環境、社会、ガバナンス)で評価の高い有識者による第三者意見をサステナビリティレポート 2018 ダイジェスト版、webサイトに掲載

### 本レポートへのご意見・ご感想をお待ちしております

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地  
カルソニックカンセイ株式会社  
グローバル経営企画本部 CSR/広報・IR部

### webご連絡フォーム

[www.calsonickansei.co.jp/csr/opinion](http://www.calsonickansei.co.jp/csr/opinion)

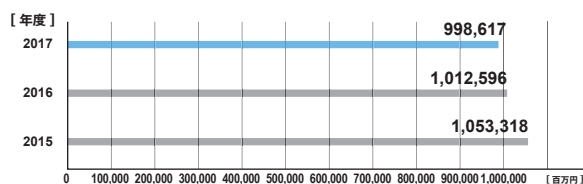


### ご注意事項

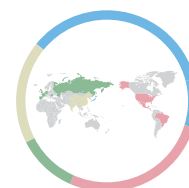
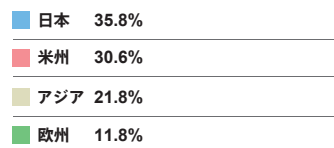
本レポートに記載しました見通しについては、業界を取り巻くさまざまな要因により実績が異なる結果となりうることをご承知おきください。

## 財務ハイライト

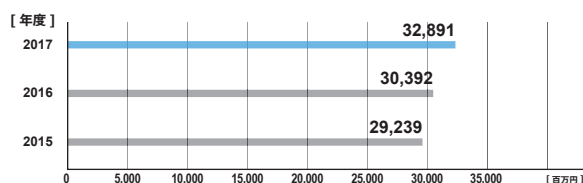
### 連結売上高



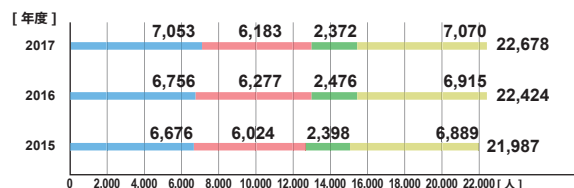
### 連結地域別売上比率 [2017年度]



### 連結研究開発費



### 連結地域別従業員



## グローバルネットワーク

### 海外主要拠点

#### アメリカ

北米カルソニックカンセイ社

#### メキシコ

カルソニックカンセイ・メキシコ社

#### ブラジル

カルソニックカンセイ・ブラジル社

#### イギリス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社  
カルソニックカンセイ・ユークー社

#### スペイン

カルソニックカンセイ・スペイン社

#### ルーマニア

カルソニックカンセイ・ルーマニア社

#### フランス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社 フランス事務所

#### ドイツ

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社 ドイツ事務所

#### ロシア

カルソニックカンセイ・ロシア社

#### 中国

カルソニックカンセイ(中国)社  
カルソニックカンセイ(無錫)社  
カルソニックカンセイ 中国エンジニアリングセンター社  
カルソニックカンセイ(上海)社  
カルソニックカンセイ(広州)社  
カルソニックカンセイ(襄陽)社  
カルソニックカンセイ(無錫)コンポーネンツ社  
カルソニックカンセイ(広州)コンポーネンツ社  
カルソニックカンセイ(広州)ツーリング社  
カルソニックカンセイ(海門)社  
シーケーエンジニアリング上海社

#### 韓国

カルソニックカンセイ・コリア社

#### マレーシア

カルソニックカンセイ・マレーシア社

#### タイ

カルソニックカンセイ・タイランド社  
サイアム・カルソニック社

#### ミャンマー

カルソニックカンセイエンジニアリングヤンゴン社

#### インド

カルソニックカンセイ・マザーソン・オートプロダクツ社

### 国内主要拠点

#### 国内事業所

研究開発センター・本社  
実験研究センター  
生産技術センター

#### 事務所

宇都宮事務所  
浜松事務所  
名古屋事務所  
倉敷事務所  
広島事務所  
厚木事務所  
鈴鹿事務所

#### 国内工場

群馬工場  
吉見工場  
児玉工場  
追浜工場

#### 国内グループ会社

カルソニックカンセイ福島株式会社  
カルソニックカンセイ九州株式会社  
東京ラヂエーター製造株式会社  
カルソニックカンセイ栃木株式会社  
カルソニックカンセイ宇都宮株式会社  
カルソニックカンセイ マシンワークス株式会社  
カルソニックカンセイ山形株式会社  
カルソニックカンセイ岩手株式会社  
カルソニックカンセイ・ビジネスエキスパート株式会社  
シーケー販売株式会社

2018年5月末日時点

**カルソニックカンセイ株式会社**

研究開発センター・本社

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地

グローバル経営企画本部 CSR/広報・IR部

[www.calsonickansei.co.jp](http://www.calsonickansei.co.jp)